



2013年にはポストスマホとしてウェアラブル・ガジェットに期待が集まり、現在まで様々なガジェットが発表・発売されてきた。しかし、これらガジェットの多くは、世間の期待を裏切ってきた。今回、アップル社が満を持して発売したのが Apple Watch であるが、現時点では評価が分かれている。今回は、Apple Watch を含め、これまでのガジェットの实情を、改めて整理してみることにしたい。

Apple Watch の評判は

アップルは、2015年4月24日、Apple Watch を発売した。このウェアラブル・ガジェットは、2014年9月10日に発表され、世界の大きな関心を集めた。マスコミは、これまで各メーカーが発売するウェアラブル・ガジェットに、大きな期待を表明してきた。

残念ながら、それらの多くは、世間の期待を裏切るものであった。このなかで、スマートフォンとタブレットで世界を制覇しているアップル社のウェアラブル・ガジェットに、今回、大きな期待を寄せたのである。

アップル社としても、2010年発売したタブレット iPad 以来の次世代を担う新製品である。ティム・クックがアップル CEO に就任し、初めての新大型商品でもある。ティム・クックは、新製品発表会でアップルの歴史における「新たな章の始まり」と述べている。

IT用語辞典バイナリは、「Apple Watch は単独でも腕時計として機能するが、iPhone と連携することによりメッセージの送受信、iPhone にかかってきた電話への応答といった、iPhone の機能を手首に装着した Apple Watch による利用法を可能にする」としている。

具体的には、「心拍数などを計測してフィットネスヘルスケアに利用したり、現在地や現在の株価、次のスケジュールといった情報確認の他、決済システム「Apple Pay」に対応する地域では店頭での支払いに利用することもできる。音声アシスタント機能「Siri」も搭載されており、話しかけて操作することも可能である」と紹介している。

しかし、発売されたばかりの Apple Watch には、良い・悪いの相反する評価が混在している。デザイン性を高く評価する声がある反面、電池寿命の短さやアプリ起動が良くない

といった批判もある。

BUZZAP!は、「Apple Watch を米大手紙などが『期待外れ』と酷評、実機レビューが荒れる事態に」（2015年4月9日）と報じ、ロイターも、「Apple Watch、69%が『購入に興味なし』と回答＝ロイター調査」（2015年3月14日）と報じている。

これまで発売されたウェアラブル・ガジェットの实情

ウェアラブル・ガジェットの歴史は古いが、大きな関心を集めたのは、2013年である。メーカーにとっては、スマートフォンやタブレットの次を担うポストスマホ市場の開拓が急がれており、マスコミにとっては、次の社会革命を起こすスマート・ガジェットの話題が欲しかった、この2つが上手く重なった時期が、2013年だったのである。

NHKのクローズアップ現代は「ウェアラブル革命～着るコンピュータが働き方を変える～」(2013年11月16日)を放送している。番組タイトルの“革命”の用語に象徴されるように、「新たなICT革命の到来」をアピールする放送になっていた。

これまで話題となったウェアラブル・ガジェットには、メガネ型(スマートグラス)、リストバンド型(スマートバンド)、腕時計型(スマートウォッチ)の3つがある。

大きな関心を集めたのは、なんとといっても、メガネ型の「Google Glass」である。2012年より、グーグル主催の各種イベントで、試作品のデモンストレーションが行われた。2013年2月よりアプリ開発者向けの販売が、2014年には先進的ツールに関心のある個人にも販売が、それぞれ始まった。価格は1500ドルであった。

しかし、2015年1月に販売を停止し、グーグルプロジェクトの管轄を、グーグルXからグーグル本体に移している。この背景には、Google Glassによる盗撮問題やネット依存症といった危険性が指摘されてきた等の問題が挙げられる。2014年暮れ頃より、アプリ開発者離れが広がっているという報告もなされている。

次に、大きな話題を集めたのが、リストバンド型であるナイキのNIKE+ FUELBAND(初期モデル)である。2012年1月に発売されたが、予約分はわずか15分で売り切れ、オンラインストアでの販売も即座に売り切れたという話題の製品である。

しかし、「ナイキ、FuelBand 開発チームの大部分を解雇か」(CNET News 2014年4月19日)と報じられ、わずか2年の間に、ナイキは戦略転換を迫られてしまったのである。ウェアラブル・ガジェット事業の難しさを、改めて世間に曝け出してしまった。

最後は、Samsungの「GALAXY Gear」である。2013年9月に299ドル(約3万円)で発売した。2014年第一四半期には、スマートウォッチ市場で先行し70%のシェア獲得(出荷台数で)と報じられている。

しかし、世間の評判は芳しくない。発売当初から「購入者の3割が返品」といったニュース(Wired、2013年10月29日)や、「『GALAXY Gear』予想以上に売れず…販売台数5万台＝韓国報道」(サーチナ 2013年11月19日)などと酷評されてきた。

以上見てきたように、ポストスマホとして期待されたウェアラブル・ガジェットの現状は、極めて厳しいと言ってよい。普及を妨げている諸問題は憶測が多く、実際の問題点やボトルネックは、不明な点が多い。この問題については、今後タイミングをみて、再度報告することにしたい。

(TadaakiNEMOTO)